

■ 事前研修・事後研修内容

1. 第一次事前研修（場所：JICA 関西）

(1) 日時：2012年6月16日（土）10:00-17:00

(2) 目的：① JICA 事業（技術協力・有償資金協力・無償資金協力）についての理解を深める。

② 教師海外研修全体の趣旨・目的を理解し、目的意識を明確にする。

③ 海外研修の概要を知り、研修全体の理解を深める。

④ 開発教育に関する知見を深める。

⑤ 派遣国の知見を深める。

(3) プログラム内容

時間	内容	講師
10:00-11:30	オリエンテーション ●あいさつ ●関係者紹介・参加者自己紹介 ●教師海外研修の全体概要説明 ●JICA 事業概要説明 ●現地スケジュール（案）の説明	JICA 関西
11:30-12:30	ワークショップ① ●開発教育概論 ●持続可能な開発（研修テーマ）について	ボルネオ保全トラストジャパン 理事 荒川共生氏
12:30-13:30	昼食・休憩	
13:30-15:30	ワークショップ② ●ワークショップ手法の習得	荒川共生氏
15:30-16:30	JICA ボランティア体験談 ●訪問国の文化や風習について知る ●JICA ボランティアの活動について知る	JICA ボランティア経験者 [カンボジア] 折井愛子氏 [サモア] 鈴木俊章氏
16:30-17:00	渡航手続きおよび事務連絡	JICA 関西

参加者の声

- ◇ 研修に参加するにあたっての心構えを聞き、引き締めて頑張ろうと思った。
- ◇ 生徒たちに何を伝えたいか、自分のテーマをしっかり決めて海外研修を有意義なものにしたいと、あらためて考えました。
- ◇ たくさんの参加型を知れるので、大変勉強になる。
- ◇ 教師海外研修の意味や今後の日程等がよくわかった。参加者の気持ち等々を知れてよかった。
- ◇ 学校で実践できるアイデアがたくさん知れて、有意義な時間となりました。
- ◇ ワークショップは今まで自分が参加したプログラムで何回か経験していたのですが、今回教えていただいた手法はすごく役に立つと思います。授業づくりに大変参考になりました。
- ◇ 現地で見て聞いて触れて自分の言葉で伝えることの大切さをより知った。



2. 第二次事前研修 (場所：JICA 関西)

(1) 日時：2012年7月7日(土) 10:00 - 8日(日) 16:30

(2) 目的：①教材・手法の活用について学ぶ。

②派遣国に関する知見を深める。

③研修のテーマを設定し、実践授業をイメージする。

④参加教員同士の研修目的の共有を図り、事前準備について明確にする。

(3) プログラム内容

[第1日目：7月7日]

時間	内容	講師
10:00-11:00	渡航ブリーフィング ●研修日程、訪問先について	JICA 関西
11:00-12:30	訪問国の開発課題について ●訪問国の開発課題について知る ●訪問国の置かれている現状や、国際協力の現場、日本との関係に関する知識を深める ●訪問国に対する理解を深める	[カンボジア] 大阪女学院大学 国際・英語学部 准教授 前田美子氏 [サモア] 天理大学 国際学部 地域文化学科 講師 倉光ミナ子氏
12:30-13:30	昼食・休憩	
13:30-17:00	ワークショップ① ●課題を使ったワーク ●訪問先から得る教材を考えるワーク ●教材づくり体験	ホルネオ保全トラストジャパン 理事 荒川共生氏
17:00-18:00	ふりかえり	荒川共生氏
18:00-19:00	夕食・休憩	
19:00-21:00	グループワーク ●役割分担、訪問先での参加型研修の意味を理解し、準備を進める。 ●日程説明 ●班分け、役割分担 ●研修実践案の作成	参加者

[第2日目：7月8日]

時間	内容	講師
9:30-11:00	ワークショップ② ●教材づくり体験	ホルネオ保全トラストジャパン 理事 荒川共生氏
11:00-11:45	海外研修について ●事前準備や海外研修について理解を深める カンボジア：カンボジア事務所とのテレビ会議 サモア：前年度参加教員による報告	[カンボジア] JICA カンボジア事務所 小川紀子氏 [サモア] 2011年度参加教員
11:45-12:30	授業実践について ●前年度参加教員による授業実践報告	2011年度参加教員
12:30-13:30	昼食・休憩	
13:30-16:00	ワークショップ③ ●授業実践に向けたカリキュラム作り ●研修成果を授業に取り入れる際の留意点確認	荒川共生氏
16:00-16:30	事務連絡 ●出発までの予定および帰国後のスケジュール ●報告書について	JICA 関西

3. 事後研修

- (1) 日時：2012年8月25日(土) 10:00-16:30
- (2) 目的：① 海外研修で得た経験を教員間で共有する。
 ② 海外研修で得た経験や教材を整理する。
 ③ 授業づくりのヒントを得る。
 ④ 実践授業に向けたカリキュラムを作る。
- (3) プログラム内容

時間	内容	講師
10:00-11:00	資料整理・教材共有 ● 海外研修を振り返り、参加者同士で体験を共有する	ホルネオ保全トラストジャパン 理事 荒川共生氏
11:00-12:30	授業作りについて ● 指導案を作るときの注意点、教材化のヒントなど ● 教師海外研修で得た素材を実践授業用に整理する ● 参加者同士で素材を共有する	荒川共生氏
12:30-13:30	昼食・休憩	
13:30-16:00	実践授業の計画作り ● 整理した海外研修の素材を使って指導案を作成する	荒川共生氏
16:00-16:30	事務連絡	JICA 関西

参加者の声

- ◇ 実際、文字におとすと、もやもやしていたものが少しスッキリしました。また、他15名の先生の話の話を聞いていると、自分にも取り入れたいことがあって、とても参考になりました。
- ◇ モノランゲージ、フォトランゲージ、自分で体験するとやはり楽しい！自分の授業にも取り入れたいです。
- ◇ 参加できて本当に良かったです。事前事後で深まりました。授業、期待してください。
- ◇ サモアで感じたことを改めて話し合っ、経験がより深くなった。またカンボジアの話が聞けて良かった。以前旅行に行ったが、全然違った視点でおもしろかったし、影絵のことも教材になるのが知れてよかった。
- ◇ 頭の中でぼんやりと考えていたことを整理できてよかった。授業計画は事前研修の時とあまり大きくは変わらないが、以前は分からなかったけど、行って分かったことがあり、修正できたのでよかった。

